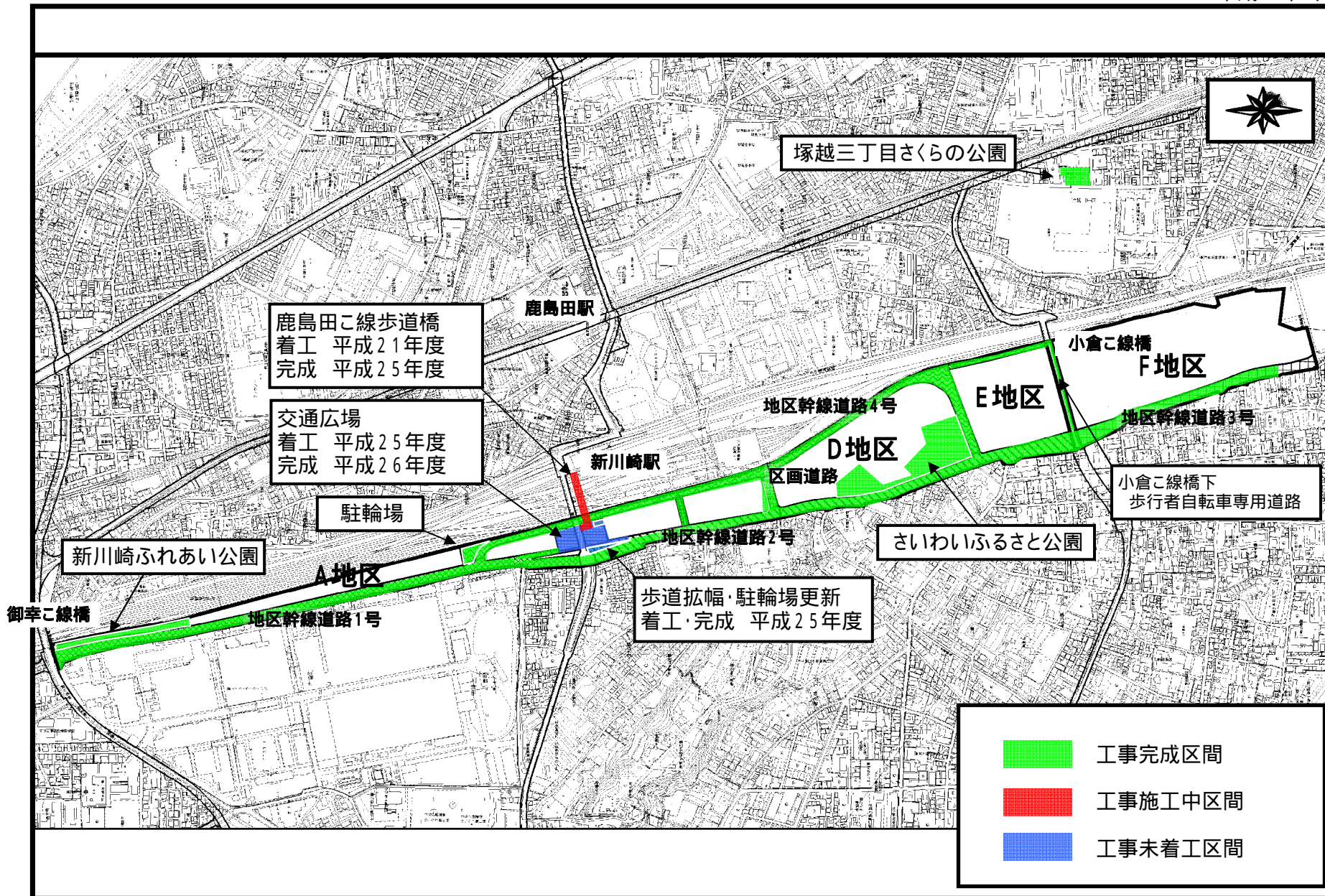


新川崎地区 都市基盤整備進捗図

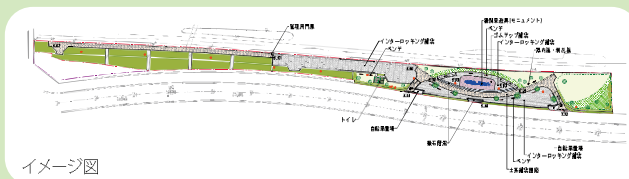
平成24年1月



都市基盤整備の概要

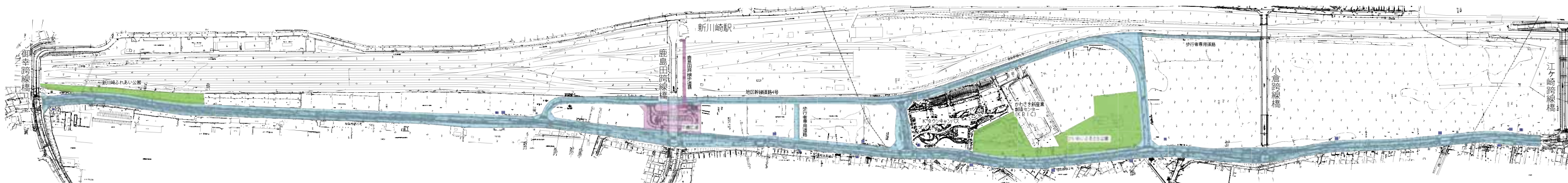
公園整備

新川崎ふれあい公園 (面積 約4,000㎡)
 散歩の休憩の場、隣接する鉄道敷きを走る電車を眺める場などとし、また電車をモチーフにした遊具で遊べるなど、場所性を活かした公園を整備します。



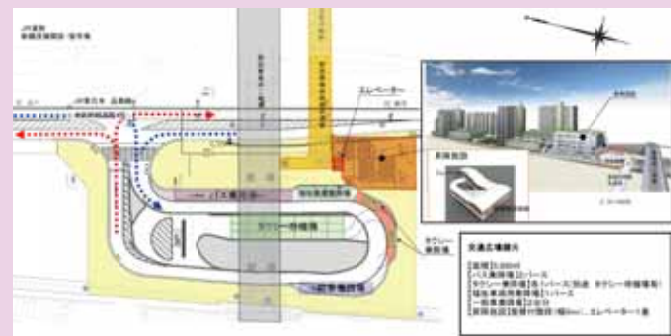
さいわいふるさと公園 (面積 約1.8ha)
 規模を活かして3つのエリアにゾーニングし、各ゾーンに特色をもたせ様々な活動が行えるよう整備します。

- 【緑の散策ゾーン】
自然散策を楽しむ。
- 【わんぱくふれあいゾーン】
子どもたちが山や芝生広場で遊ぶ。
- 【多目的ゾーン(約7,000㎡)】
運動、催しの場。防災広場としても活用。



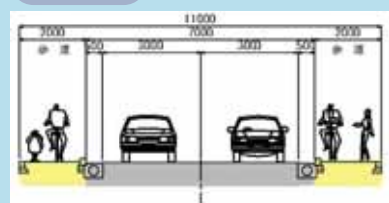
交通広場・鹿島田跨線歩道橋整備

新川崎駅を核とした交通結節機能を強化するため、バス・タクシー・一般車の乗降場などを備えた交通広場を整備します。
 さらに、既存の鹿島田跨線橋を補完して、新川崎駅と交通広場を結ぶ歩行者専用の跨線橋を新たに整備し、駅へ向かう歩行空間の機能強化を行い、駅へのアクセス性や歩行者の安全性などの向上を図ります。



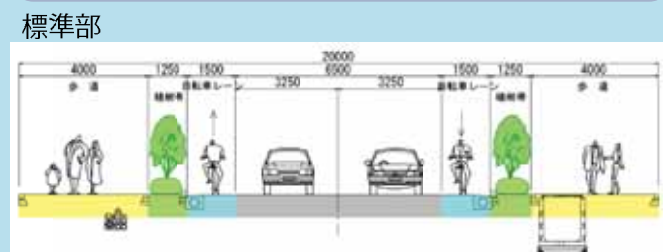
道路整備 【全整備延長約4.0km】

整備前

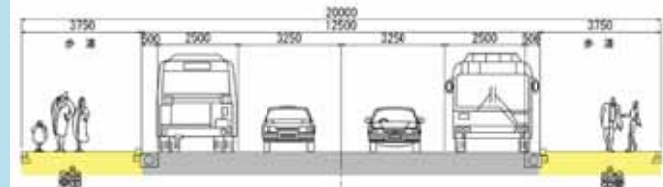


整備後

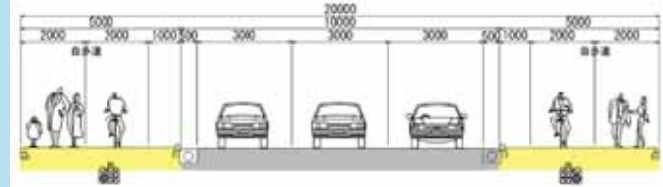
快適な道路空間の確保を目指し、主に換車場跡地側へ道路拡幅し、歩道や植栽帯などを新たに整備します。



標準部



バス停留所



交差点部

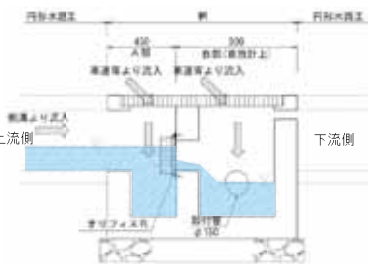


電線共同溝整備

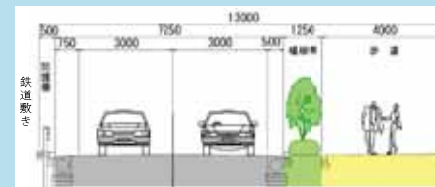
良好な景観の実現、防災性の向上、快適な通行空間の確保などを図り、電線共同溝を整備し、電線類の地中化を行っています。

道路側溝の雨水貯留

本地区は、特定都市河川浸水被害対策法に基づく特定河川に指定されている鶴見川流域に位置し、道路の新設などにあたり河川への雨水流出を抑制する対策が必要となります。このため、道路側溝に貯留機能を設け、雨水流出の抑制に努めています。



地区幹線道路4号(新設道路)



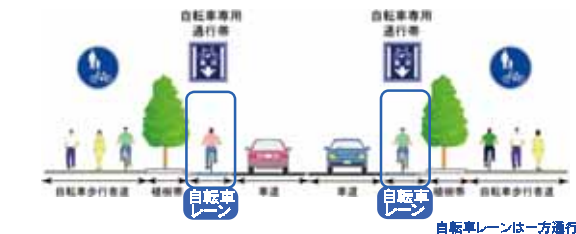
歩行者専用道路

新たに整備する道路歩道部と連携して歩行者専用道路を配置し、安全で快適な歩行者動線の確保を図ります。



自転車レーンの整備

歩行者、自転車の快適な通行の実現を図るため、自転車レーンを整備します。整備区間の一部は「自転車通行環境整備モデル地区」に指定されています。



透水性・保水性インターロッキングブロック

歩道部には、河川(下水)の負荷を軽減するため、雨水が地下に浸透しやすく(透水性)、またヒートアイランド対策として路面の温度上昇の抑制を図るため、保水機能をあわせつつインターロッキングブロックを採用しています。

